

青梅市文化財ニュース

第433号

令和5年11月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

茅葺き民家

「茅葺き」とは、ススキやヨシ(アシ)、チガヤ、カリヤス、藁、杉皮など植物で葺いた屋根の総称で、屋根材は地域ごとに大量に入手できる植物が使われてきました。茅葺き屋根は、植物を重ねて葺くため空気の層が形成され断熱効果、空調効果、吸音・防音効果、植物に含まれる油分の撥水効果による防水性、さらに煙で燻することによるタール付着による防虫効果もあるとされます。葺き材がいたむと葺き替えて更新し続けることができ、廃材は肥料や飼料として再使用され、現在のSDGsに含まれる資源循環が古来行われてきました。

しかし、日本の原風景とも言われた茅葺き民家は、昭和35(1960)年頃から急速に減少し、今は文化財などに指定されたものを除き消滅の危機にあるとさえ言われています。戦後、日本経済の成長の波が全国各地に広がり、近代的な生活様式が求められ、モダンな住宅に建て替えられていったためです。そこで全国と青梅市の茅葺き民家の残存数について調べてみました。

○全国の(金属板で覆われた屋根を含む)茅葺き民家の残存数

(『平成14年度茅葺き民家に関する調査研究報告書』より)

1. 茅葺き民家の残存推定総数・・・約14万棟(1960年代の30分の1)

2. 地理的分布

(1) 棟数の多い県……福島県4000棟超、長野県4000棟弱、兵庫県3000棟、新潟県、岡山県、京都府が各2000棟超

この6県は東の福島県、新潟県、長野県というブロックと、西の京都府、兵庫県、岡山県というブロックとして捉えられ、そのブロックの周辺に比較的多い県が分布する。

(2) 棟数の少ない県……沖縄県、鹿児島県、宮崎県、長崎県、高知県、神奈川県が50棟弱

この6県でも1960年代は大半が茅葺きであったが、台風による被害が多いため、他地域に普及している金属板で屋根を覆う方法が台風に弱いいため、茅葺きの維持を断念したと推定される。

3. 市町村別

500棟以上がまとまって残存する市町村・・・以下の10市町村

福島県会津坂下町、長野県飯山市、兵庫県の神戸市と篠山町（現・篠山市）、長野県木島平村、京都府福知山市、香川県琴南町（現・まんのう町）、秋田県秋田市、福島県白沢村（現・本宮市）、岩手県胆沢町（現・奥州市）

- ・最多は、福島県会津坂下町。
- ・地域別では、10市町村のうち中間農業地域の市町村が最多である。
- ・神戸市、福知山市、秋田市といった都市的地域にも多くが残存する。
- ・山間農業地域は、香川県琴南町（現・まんのう町）だけである。

山間地域では過疎化が進み経済基盤が失われて茅葺き民家は一挙に姿を消し、一方で都市地域の農村では都市近郊農業に加えて雇用機会が多く経済的に安定しているため多く残されていると推察される。

○青梅市内の（金属板で覆われていない）茅葺き民家の残存数

1. 平成13(2001)年の茅葺き民家の残存数・・・計29棟

29棟の地区別数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

東青梅（1）、千ヶ瀬（1）、大柳町（1）、駒木町（1）、梅郷（2）、柚木町（2）、黒沢（1）、二俣尾（5）、上成木（2）、軍畑（1）、沢井（4）、御岳本町（3）、御岳山（5）

2. 令和5(2023)年現在の概況

29棟のうち多くが残存しているが、金属板で覆われた屋根が増加している。

『平成14年度茅葺き民家に関する調査研究報告書』によると、茅葺き民家の住人の多くは今後も住み続けることを希望しています。しかし、茅葺き職人の減少、茅材不足による葺き替え経費の高騰は特に難題です。最近クラウドファンディングで葺き替え支援を募るケースもありますが、個人に頼るだけでは茅葺き民家の維持継続は難しそうです。

茅葺きが盛んな欧州（オランダ、デンマーク、ドイツ、ハンガリー、イギリスなど）では、職人後継者に対しては政府による充実した協力・支援育成、協同組合結成による社会的地位の向上が図られています。工法では防火性や気密性を高め経費も削減できる技術開発などが行われ、この開発された新技術は新築に用いられ、伝統的建物には伝統技術が厳守されています。茅葺き材の葦は中・東欧諸国で大量生産され安価で供給されているといえます。

日本でも諸問題を解決し、茅葺き民家が永続するよう願います。

（文責 三好ゆき江）

参考文献・・・（財団法人）都市農山漁村交流活性化機構(2003)『平成14年度全国の茅葺き民家に関する調査研究報告書』、近藤肇(2002)『茅葺の民家 青梅市周辺（生活する茅葺の民家 2001年存在記録）』自費出版、日塔和彦(2019)「茅葺き事情 欧州に学ぶ」読売新聞 2019年3月16日の記事